資料５－２

知床世界自然遺産登録 20 周年事業
「世界遺産と地域（仮）」企画について（提案）

公益財団法人　知床財団

20250305_2024 年度第 3 回科学委員会　提案
20250324_2024 年度第 2 回地域連絡会議　提案

1.　企画趣旨

知床は 2005 年 7 月 17 日に日本で 3 ヵ所目の世界自然遺産に登録された。このことは知床世界自然遺産の管理機関である国(環境省・林野庁)と北海道が知床の自然環境を世界の宝として後世に残すために大きな決断をしたことを意味する。

また、知床における世界遺産のガバナンスは、従来にない枠組みを取り入れることとなった。その代表が、科学的な知見に基づき陸域と海域の統合的な管理に必要な助言を行う科学委員会と、地域コミュニティーの参画と合意のための地域連絡会議である。常設で設置されたこれらの枠組みに、地元自治体である斜里町と羅臼町に加え、遺産地域で経済活動や生活をする漁業者や観光事業者、民間団体等も参画し、地域的な課題について対応する体制が整えられていった。こうしたモデルは「知床方式」とも呼ばれ、わが国の世界自然遺産管理のスタンダードとして定着した。

遺産登録から 20 年が経過し、こうした枠組みは安定し、その成果や実績も見える化できる段階に達した。一方、自然と社会の変化を見据え、新たな課題への対応も求められている。地域の人口減少が加速するなか、自然保護区が地域経済やコミュニティにどのよう貢献すべきなのか。ネイチャーポジティブが社会目標として注目され、自然保護区の概念が拡大するなか、世界自然遺産の価値と経験をどう活かすのか。不確実で将来予測が困難な自然と社会に対し、科学者と地域はどう向き合うべきなのか。

登録 20 年の節目にこの間の変化と到達点について時間軸を踏まえて俯瞰するとともに知床での経験を振り返り、ローカルとグローバルの両面においてこれからの世界自然遺産に期待される役割を議論したい。

2.　企画の概要

(１)　科学委・各 WG・地域連絡会議を通じた「振り返り」の実施

・　世界遺産としての知床の自然環境について 20 年間の取り組みを振り返り、その成果と課題をまとめ、今後の施策に反映する。
・　振り返りは、科学委員会と各 WG/AP などの機会を通じて実施する。委員長および WG/AP の座長には総括レポートの作成を依頼する。
・　地域軸としては、地域連絡会議を構成する行政機関、漁業、観光業、地域団体などを対象としながら周年事業実行委員会との連携を検討する。
・　振り返りの指標として「知床世界遺産推薦書」「知床世界自然遺産地域管理計画書」、毎年時の「知床白書」及び知床データセンター資料を活用する。

(２)　公開シンポジウムの実施

テ　ー　マ　　「世界自然遺産と地域（仮）- 知床世界自然遺産の 20 年 - 」
概　　要　　前項の「振り返り」のまとめの場として、公開シンポジウムを開催。
実施時期　　2026 年 2 月～3 月ごろ
実施概要　　・都市圏（札幌）および地元での 2 回程度の実施が望ましいと考える。
　　・科学委員会、地域連絡会議などと連携した開催形式を検討する。
　　・周年事業実行委員会による事業との連携を相談したい。
　　・必用に応じて、外部有識者や遺産登録時のキーパーソン、他の遺産地域の関係者等の招聘を検討する。

開催形式、実施時期については、他の周年事業や関係者のスケジュールを踏まえながら調整を図る。行政機関、関係者等の負担に配慮した開催形式を検討する。地域連絡会議との連携開催等も検討しているため、この場でもご意見をお願いしたい。

(３)　２０周年記念誌の発行

・　前項のシンポジウムの記録、座長によるまとめレポートなどを整理し、記念誌を発行する。記念誌は、本編と資料編での構成を想定する。
・　資料編として、過年度の知床白書の合冊版を発行する。知床白書は 2009 年から発行が続けられており、2023 年度版まで 16 冊が発行されているが、製本されたものはない。これらの利活用を企図して作成するもの。編集のありかた、分冊とするかなどは今後協議したい。
・　記念誌は、資料としての活用や教育活動での活用を企図し、地域の教育機関・図書館・自治体等へ寄贈する。

3.　実施体制と費用負担

（１）実施体制

・　世界遺産地域の管理者および地元自治体については、事業主体または協力団体としての対応を検討頂きたい。
・　実施体制については、周年事業実行委員会との連携や合同も相談したい。
・　知床財団は、企画運営の事務を行う用意があり、一定の費用負担も予定している。

（２）費用負担の例

環境省／シンポジウムに関する科学委員会関連分及び会場費など
環境省･林野庁･北海道／通常ワーキングなどに含まれる負担及び職員経費など
斜里町･羅臼町／シンポジウムに関する職員経費、地元団体経費、会場費など
知床財団／全体取りまとめに関する事務、記念誌発行の経費等
*記念誌等の作成にあたっては、補助金・助成金の活用も検討する。

費用負担については、既存会議等と連携等により可能な限り低減を図る。 特定の団体に過渡な負担が生じないよう留意する。

4.　スケジュール

2025 年 3 月／科学委員会および地域連絡会議で概要説明、意見聴取
2025 年 5 月ごろ/企画概要の確定。振り返りの方法や記念誌構成を協議（ML 等）
2025 年度上半期／第 1 回科学委、各ワーキング、地域連絡会議などの場を通じた振り返りの実施。座長を中心に内容を確認(2022 年度公開シンポジウムの成果を踏まえて整理)
2025 年度 10 月～12 月/シンポジウム等に向けた準備、とりまとめ作業
2026 年 2 月頃／科学委員会開催に連動させた公開シンポジウムを札幌で開催
2026 年 2-3 月頃／行政機関及び地域団体による「地元シンポジウム」を知床で開催
2026 年春以降／20 周年記録誌の発行

5.　科学委員会での提案と結果

3 月 5 日に札幌で開催された今年度第 2 回科学委員会に同企画を提案し、企画の趣旨についておおむね賛同を得た。主なコメント等は以下の通り。

- 委員としても協力する責務のある企画と認識。一方、振り返りのまとめや記念誌の作成については、委員の負担が大きくなるため、具体的な構成とスケジュールについて早めに協議頂きたい。
- 来年度第 1 回の各 WG での検討事項や資料作成等について整理を進めるべき。

6. 直近の参考事業例

(1) 2023.3.15 知床世界自然遺産公開シンポジウム
「 科学者がみてきた知床の今と昔 - 知床世界自然遺産登録 20 周年を前に - 」

○北海道道立道民活動センター かでる２・７４階 大会議室（オンライン併用）
・報告１ データで見る知床の世界自然遺産としての価値の現状
・報告２ 知床における最新の研究成果、先進的な取り組み
① 環境 DNA を活用した水圏生態系の新たなモニタリングの可能性とは？
② 知床周辺の海氷は減っていくのか？海洋生態系への影響とは？
③ 知床半島のヒグマ生息数は？人里への大量出没の原因とは？
④ 世界自然遺産の適正な観光利用のための地域関係者のかかわり
・パネルディスカッション 科学者が見てきた知床の今と昔
―知床世界自然遺産登録 20 周年を前に―

(2) 2008.11.18-19 知床世界自然遺産地域科学委員会地元報告会
「科学の目で見た世界自然遺産・知床」 ～科学委員と語ろう！その現状と未来～

○斜里町立知床博物館 18：30～20：30 ○羅臼町公民館 １８：30～20：30
・主催 知床世界自然遺産地域科学委員会(科学委員会事務局：環境省・林野庁・北海道)
・協力 斜里町・羅臼町
○調査の現状と今後の方向性について
報告 1 知床の海とその管理
報告 2 河川工作物の改良とサケ科魚類
報告 3 エゾシカの急増とその影響
質疑・懇談・総括

7. 参考記録

(1) 「知床・限りなき生命の輪 -世界自然遺産登録を前に-」 モーリー No10 2004
(2) 「世界自然遺産登録による知床の変化」 地球環境 Vol 13-1 2008
(3) 「世界自然遺産と生物多様性、その展望と課題 -知床から見えてきたもの-」報告 第 17 回野生生物保護学会北海道大会 公開シンポジウム Wildlife Forum Spring/Summer 2012
(4) 「日本の世界自然遺産 30 年 -自然保護と暮らしの両立モデルへ-」 BIOCITY No96 2023
(5) 「世界遺産・知床がわかる本」 岩波ジュニア新書,岩波書店 2006
(6) 「世界自然遺産の今」 國立公園 No754 2017 年 6 月号
(7) 「特集 世界自然遺産」 私たちの自然 No.636 2021 年 9 月・10 月号